



福 小 だ よ り

【目指す子ども像】
自分を大切にする子
いろいろな考えがあることを認める子
自分で決めることができる子
決めたことをやりとげる子

学校教育目標「自分や他者を理解し受け入れ、相互協力しながら、問題を建設的に解決できる力の育成」

「プラスのストローク」で織りなす ご機嫌な関係づくり

校長 長浦 紀華

寒さも本格的になり、学校ではクリスマスや年末年始の話題で、子どもたちの心が弾んでいるのを感じます。いよいよ明日からは、楽しみにしている冬休みです。

さて、12月8日の全校朝会で、私は子どもたちに「ストローク」という少し聞き慣れない言葉を覚えてもらいました。「ストローク」とは心理学用語で、簡単に言えば、周りの人たち、例えば友達、先生、そして大切な家族などに対して、私たちが「どんな関わり方をするか」ということです。特に、「どんな言葉をかけるか」という点に着目して、みんなで考えてみました。

講話の途中で、私は子どもたちに「隣の人と、相手を元気にする言葉ってどんな言葉か、一分間話し合ってみてください。」と問い合わせました。話し合いの後、子どもたちから色々な「元気の出る言葉」が発表されました。

1年生からは、「大丈夫だよ」という、寄り添う気持ちのこもった優しい言葉。

特別支援学級の6年生からは、「ありがとう」という、感謝の気持ちを伝える温かい言葉。

どの子どもたちの心にも、思いやりの気持ちがあることを確認でき、大変嬉しく思いました。

私は、こうした「相手を元気にする声かけ」のことを、今回、「プラスのストローク」と呼ぶことにし、冬休みに入るまでの間、みんなに挑戦してもらいたいと次の宿題を出しました。

○誰か一人を決めて、その人に「プラスのストローク」をかけ続けてみること

○誰にしたかは秘密にして、自分の胸の中にしまっておくこと

また、できれば、普段から仲の良い相手よりも、あまり話す機会がない相手を選ぶ方が、自分の心も成長できると伝えました。そして、最後に、「その挑戦を通して、自分の気持ちがどのように変化するかを楽しみに続けてみてください。校長先生もやってみます。」と約束しました。

「プラスのストローク」は、実は言葉だけではありません。「表情」も同じくらい、あるいはそれ以上に大切な要素を占めています。

例えば、微笑んでいるお母さんの顔を見て、赤ちゃんがそれを真似して「にこっ」と笑顔になったとしましょう。我が子の笑顔を見たお母さんは、それが嬉しくて、自然ともっと優しい笑顔になります。すると、赤ちゃんはまたその笑顔を見て、さらに笑みを深めます。ここに、「笑顔が笑顔を呼び、お互いの気持ちがどんどん高まっていく」という、素晴らしいプラスのスパイラル（良い循環）が生まれています。

つまり、私たちは意識して笑顔でいれば、相手からも笑顔が返ってきます。特別な理由がなくとも、その笑顔の交換だけで、なぜだか相手に対して「好感」をもつことができ、自分の心まで「ご機嫌」になるのです。これは、相手への親愛の情や尊敬の念などの感情に先立って、「良い人間関係」が築かれていく仕組みの一つだと言えるでしょう。「プラスのストローク」を言葉と表情の両方で実践することは、相手の心に光を当てるだけでなく、自分自身の心を明るく照らし、気持ちをご機嫌にする魔法なのです。

そうは言っても、私たちは日常生活の中で、時間に追われたり、考え方を集中したりしていると、これらの素晴らしい行為、「プラスのストローク」を意識して続けることは、なかなか難しいのが実情です。かく言う私自身も、子どもたちに「やってみて」と伝えたものの、実践できているかといえば、そうではないのが現実です。

これから、年末年始を含む冬休みという、家族や親戚、近隣の方々と過ごす時間が多くの特別な期間がやってきます。子どもたちには、学校で実践した「プラスのストローク」を家庭でも試してみてほしいと願っています。

○相手への感謝や励ましの言葉（プラスのストローク）を、一日の終わりに一つでも言えたか振り返ってみる。

○相手と目を合わせるときは、まず笑顔を作つてみる。

これらの小さな実践が、人と人との関係を温かく、ご機嫌なものにしてくれるはずです。

冬休みが、皆様にとって、心温まる、そして笑顔溢れる「ご機嫌な」時間となることを心より願っています。どうぞ良いお年をお迎えください。

防災フォーラムが行われました

本校では、これまでの防災教育の成果が認められ、今年度、「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」の助成校に選ばれました。このことを機に、子どもたちの学びの成果を、地域の方々にも広く知っていただくとともに、地域の方々と一緒に学ぶ防災教育に力を入れることとし、その一環として、12月18日(木)に「防災フォーラム」を2部構成で実施しました。

第1部 6年生による防災バスツアー

第1部では、6年生がガイド役を務め、町内の危険箇所や避難経路について実際に現地をまわる「防災バスツアー」を実施しました。子どもたちは、事前に調べた内容をもとに、自分の言葉で説明しました。参加した皆様からは、「子どもたちの話が勉強になった」「知らないかったことがあります、改めて避難場所を見直すきっかけになった」といった声が寄せられました。

第2部 講話・ワークショップ

第2部では、前述の減災教育プログラムの一環として東日本大震災の被災地を視察した福家鉄也教諭が、写真を提示しながら、その報告や気付きをお話しました。その後、ワークショップとして「震災が起きたらどうする?」をテーマに、5・6年生と地域の方々と一緒に避難時の持ち物について考えました。

今回の防災フォーラムを通して、子どもたちは防災を自分事として捉える意識をさらに深めることができました。今後も、学校・家庭・地域が一体となった防災教育を大切にしていきたいと考えています。ご参加いただいた皆様方、誠にありがとうございました。



青少年の主張大会

12月12日(金)に町主催の青少年の主張大会が福祉センターで開催されました。本校からは、6年の馬駒希咲さんと吉田陽葵さんが発表しました。主張は国語『12歳の主張』で学んだ事から自分の考えをまとめたものです。2人とも堂々と聞きやすい声で発表できました。貴重な経験になったのではないかでしょうか。



学習成果発表会

12月19日(金)に、福島商業高校で小・中・高校合同の学習成果発表会が行われました。

本校からは5年生が参加し、「総合的な学習の時間」で学んだ福島町の魅力について、3つのグループがそれぞれ「黒米」「農業,食べ物,特産物」「観光スポット・行事」をテーマに発表しました。



1月行事予定

日	曜	主な行事	日	曜	主な行事
1	木	元日 学校閉庁日～7日	21	水	特別日課
14	水	4時間授業・全校朝会	23	金	委員会・週末読書
15	木	4時間授業・職員会議	26	月	全校朝会(児童会レク)
16	金	非常時下校訓練	27	火	新入学児童入学説明会・体験入学(13時～)
19	月	なわとび週間(～1月30日)	28	水	特別日課
20	火	移動図書・学級文庫交換	30	金	クラブ⑦

【お知らせ】

- 冬休み中の連絡は、学校にお電話(47-2004)ください。
- 学校閉庁日や休日に緊急な事案が発生した場合は、安心メールの「欠席遅刻届け」を使ってご連絡ください。